

平成二十六年 徳川園牡丹祭 小学生・中学生俳句大会

平成26年4月19日から5月6日まで「徳川園牡丹祭」の一環として開催した「小学生・中学生俳句大会」は、投句数にして257句のご応募をいただきました。たくさんの方々のご参加、誠にありがとうございました。

審査会を行った結果、最優秀作品 小学生の部二句、中学生の部二句、入選作品 小学生の部五句、中学生の部五句を次のとおりに決定いたしました。
(賞・部門ごとに学年順・五十音順)

◆審査会委員 (五十音順)

井澤 昭雄 (四日市中日文化センター講師、ともしび詩舎同人)

加藤 啓子 (公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館 企画推進部 課長)

桐原 千文 (名古屋市蓬左文庫 文庫長)

岩田 正雄 (公益財団法人 名古屋市みどりの協会 徳川園管理事務所 所長)

《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 旭丘小学校 (東区) 二年 草間 美鈴 さん

さくらもち ひとくちたべて春いっぱい

桜色の「さくらもち」が店頭に並んだだけで嬉しくなります。

幸せ色のさくらもち、ひとくち食べたなら本当に幸せ、体いっばいに春が広がります。

目からも口からも春を体いっばいに受け止めて嬉しそうな少女の笑顔が浮かんでこちらも幸せ気分いっばいです。

「さくらもち」のひと言で、春が運んでくる言いようのない幸福感が伝わってきます。

【審査員 桐原 千文】

《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 東白壁小学校（東区）三年 瀧谷 春太さん

ホトケノザ ふまないように つくしとり

寒さがゆるみ、日差しも風も柔らかくなり、待ちに待った春が到来。山もさまざまな草木が芽を吹いて、生命の息吹を感じます。その息吹のひとつである「つくし」を採りに出掛けた作者。つくしの横で可愛らしい花をつけたホトケノザを踏まないように歩く作者の優しさが伝わります。

【審査員 加藤 啓子】

《最優秀作品・中学生の部》

金城学院中学校（東区）一年 中村 桃子さん

業平に 見せたい池の カキツバタ

紀貫之が「近き世にその名きこえたる人」として挙げた六歌仙の一人である業平は、伊勢物語の東下りで、カキツバタの美しさにその五文字を各句の上にするにすえて詠んだ歌は古文の教科書では必ずと言っていいほど有名な作品である。作者は、業平と愛知県花のカキツバタの優雅さ・美しさを知り、時を遡り再び業平に見せたかったのではと思われる。徳川園のカキツバタも美男であった業平の恋心を醸し出すよう更に美しく咲かせるよう育てていきたい。

【審査員 岩田 正雄】

《最優秀作品・中学生の部》

名古屋市立 桜丘中学校（東区）二年 伊藤 かこさん

春眠や 母の足音 たどる耳

「春眠しゅんみんを覚おぼえず、処しよ処じよ啼てい鳥てうを聞きく」と孟もう浩こう然ねんの詩しにあるように、
春はるの朝あさの眠ねむり心こ地ちは格かく別べつです。
夢ゆめうつつの中なかに小こ鳥とりのささええずりずりでなくお母かあさんの足音あしおとが近ちかづづいてくる。
誰だれしも覚おぼえのある春はるの朝あさです。

【審査員 井澤 照雄】

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 山吹小学校（東区）二年 鏡 嘉月さん

こいのぼり ふわりふわりと フラダンス

名古屋市立 筒井小学校（東区）二年 安藤 智慧さん

しゃぼん玉 にじいろキラリ うかんでる

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 筒井小学校（東区） 四年 林 はやし 真凜 まりん さん

大空に 手をのばしてる ハナミズキ

名古屋市立 旭丘小学校（東区） 四年 佐藤 さとう 秀真 しゅうま さん

たきの音 耳をすませば さえずりも

名古屋市立 矢田小学校（東区） 六年 川崎 かわさき 長 たける さん

うめの花 朝一番が いいにおい

《入選作品・中学生の部》

名古屋市立 あずま中学校（東区） 二年 岩瀬 いわせ 磨耶 まや さん

牡丹咲き 皆の笑顔 咲くように

《入選作品・中学生の部》

愛知教育大附属名古屋中学校（東区）三年 小林こばやし 明日香あすかさん

えらべません 桜もだんごも お気に入りに

名古屋市立 桜丘中学校（東区）三年 西脇にしわき 未紗みささん

サクラサケ 受験をひかえ 猛勉強

名古屋市立 富士中学校（東区）三年 朱しゆ 鳳亭ほうていさん

春一番 わたしの夢へ 走り出せ

名古屋市立 矢田中学校（東区）三年 服部はっとり ゆり菜なさん

ランドセル 小さな背中で 踊ってる

《総評》

徳川園牡丹祭の俳句大会にご参加していただきました小学生、中学生の皆さん、どうもありがとうございます。

俳句大会は昨夜秋の紅葉祭に次いで第6回目となります。今回のテーマは「春」でしたので「花」を詠んだ句が多かったのですが、「新学期の意気込み」など、さまざまな視点で作者の春をとられた句も多くありました。

さて、今回の最優秀作品に選ばれた4点は、いずれも魅力的で素晴らしいものでした。小・中学生の皆さんには、どうしても学年による表現力の違いがありますので、年齢に応じた言葉で表現されていることなどを考え、審査員の心に強く残ったものを選択しました。また、優秀や入選に漏れた作品の中にも心に留まる表現をされた作品も多々ありました。

徳川園および徳川美術館、名古屋市蓬佐文庫は、尾張徳川家由来の歴史文化施設として中世武家文化の魅力を国内外の皆様発信していくことが役割であります。

このような自然、歴史、文化的環境の場所で、四季の情景を「俳句」で表現することは感性を育む大切な時期である小・中学生の皆さんにとって言葉を大切にできる機会になったのでは、と思います。

最後に、今回の大会で小・中学生の皆さんが俳句を考えるにあたって、助言や指導をしていただいた保護者、学校教員の方々に厚く御礼申し上げます。今後も子どもさんが自らの感性や想像を言葉に表現する楽しみにご一緒に参加していただけることをお願いいたします。

審査会代表

徳川園事務所長

岩田 正雄